

事業名	児童生徒の心に響く道徳教育推進事業	
主管課及び関係課 (課長名)	(主管課) 初等中等教育局教育課程課 (課長: 常盤豊)	
施策目標及び達成目標	施策目標 2 - 2 豊かな心の育成と児童生徒の問題行動等への適切な対応 達成目標 2 - 2 - 1 幼稚園から高等学校までの全ての学校種において、体験活動を生かした道徳教育や地域人材の積極的活用など特色ある充実した道徳教育を実施する。	
事業の概要	学校の教育課程全体で、自他の生命のかけがえのなさ、誕生の喜び、死の重さ、生きることの尊さなどを積極的に取り上げることで、児童生徒の「命を大切にすることへの自覚を深める必要がある。このような児童生徒の心に響く道徳の授業を推進するため、児童や地域の実態に即して、指導内容、指導方法及び教材開発等についての研究を全都道府県で行い、その成果の普及を図る。	
予算額及び事業開始年度	平成17年度概算要求額: 281百万円 (平成16年度予算額211百万円) 事業開始年度: 平成14年度	
事業開始時において得ようとした効果	道徳教育について、授業時数が標準授業時数(年間35単位時間)を下回っている学校が少なくなかったり、形式化した指導となったりするなど、教師が必ずしも道徳の内容を十分に指導できていない状況があり、他の学校が参考にできる先行的な取組を支援するとともに、その成果を普及し、道徳教育の改善充実に資する。	
得られた効果	各学校や地域の実態に応じ、地域人材の活用や体験活動等を生かした多様な取組の工夫等、各学校や教育委員会の創意工夫を生かした児童生徒の心に響く道徳教育を推進するための実践研究の実施により、道徳の授業の充実が進められつつあり、例えば次のような変容が見られた。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用することで、子どもにとって印象的になり、教師では伝えることのできない感動を与えることができたり、指導過程での効果的な活用案、実践例を整理することができた。 ・体験活動を生かすことで、児童が実感をもって考えることができ、道徳的価値の自覚が深まったり、道徳の授業が効果的に行われるという認識が教員間に浸透したりした。 ・教材を活用・開発することで、児童生徒が道徳的価値に共感して自覚を深める話し合いができたり、効果的な授業の導入ができた。 ・授業公開で、教師の授業力が高まったり、学校・家庭・地域の連携が図られたりした。 	
得ようとする効果	地域人材の活用や体験活動等を生かした多様な道徳教育の促進とともに、新たに児童生徒に命の大切さを実感させる観点から、学校や児童生徒の現状と課題の分析や効果的な教材等や指導方法の開発などを行い、学校における道徳教育の充実に資する。	達成年度 平成20年度
必要性	将来の我が国を担う子どもたちに、命を大切にすることや他人を思いやる心、規範意識等の道徳性の育成を図ることは極めて重要なことである。また、小学生による同級生殺害事件後に設置されたプロジェクトチームにおいて、同種の事件の再発防止に向けた取組として、命を大切にすることの教育の一層の充実が強調されており、喫緊に取り組むべき社会的要請となっている。 このため、学校教育においては、家庭や地域、関係機関等と連携しつつ、児童生徒の心に響く道徳教育の一層の充実を図ることが必要不可欠である。 さらに、平成15年度実績評価においても、達成目標2-2-1の今後の課題として、「道徳教育については、引き続き、学校や教育委員会の創意工夫を生かした道徳教育、体験活動を生かした道徳教育や、地域人材の積極的活用等による特色ある道徳教育に取り組む必要がある。」とされているところである。	
効率性	命を大切にすることなどについて、指導内容、指導方法等のモデルを国が重点的に研究し広く成果の普及を図ることは、それを生かした学校の取組を促進することにつながり、子どもが自他の生命の大切さを実感し、他者を傷つけてはならないことを自覚して生命を尊重した行動がとれるようにする教育を広く推進する上で、効率性に配慮した事業形態である。	
有 効果の把握の仕方	指定校における研究について、各学校においてそれぞれの実態に即して研究目標を立て、それに照らし把握した研究成果を集積し、指定校における子どもの変容など道徳教	

効 性	(検証の手順)	育の状況や研究成果の活用状況等を都道府県教育委員会を通じて把握・分析する。 <研究目標例> ・子どもの変容 ・教員の指導力 ・学校・家庭・地域との連携 など
	得ようとする効果の達成見込みの判断根拠(判断基準)	指定校における子どもの変容など道德教育が改善されることや指定校の研究成果が普及されること等を以て、学校における道德教育の充実に資するものと判断。

命を大切にしている教育の推進

- 子どもたちの豊かな人間性や社会性の育成のために -

平成17年度要求額 1,426百万円(1,069百万円)

背景、課題

生命を大切にしている心や他人を思いやる心、規範意識等の道徳性の育成のため、家庭や地域等と連携協力しつつ、地域・学校の創意工夫を生かした道徳教育の充実を図ることが必要

各学校における道徳教育の課題（児童生徒の実態把握、効果的な指導方法、教材の工夫、指導力向上や家庭・地域との連携等）を解決し、道徳教育の充実改善を進めるための具体的な手立てに関する研究が急務

児童生徒の社会性や豊かな人間性を育むためには、成長段階に応じて、ボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動をはじめ様々な体験活動を行うことが極めて有意義

急激に進展する情報化の中で、情報モラル等の指導の充実を図るためには、教員の情報モラル等に関する指導力の向上、情報モラル等の普及啓発等が必要

道徳教育推進事業等（生命のかけがえのなさなどを知る）

児童生徒の心に響く道徳教育推進事業（拡充）（281百万円）



- ・生命のかけがえのなさや死の重さなどを取り上げ、指導内容、指導方法、教材開発の研究
- ・地域・学校の創意工夫を生かした道徳教育の展開
- ・取組の成果や課題等について協議する研究協議会の開催
- ・道徳教育推進状況等の把握と情報提供体制の構築

「未来を拓く心」を育てる支援活動の充実（心のノート）

道徳教育の充実のための教員養成学部等との連携研究事業

道徳教育推進資料の作成

自分の思いを伝えたり、他者と関わり合う力を高める



伝え合う力を養う調査研究（新規）

- ・学校教育の様々な機会を通じて、お互いの考えや気持ちを伝え合う力を高め、生活上における問題を言葉で解決する力を育てるとともに、児童生徒が相互理解や望ましい人間関係づくりを進めるためのカリキュラム等の在り方について、計画的、総合的に高めていく調査研究を実施

体験を通じて実感を深めるとともに社会性や豊かな人間性を育む

豊かな体験活動推進事業（拡充）

- ・他校のモデルとなる体験活動を実施し、その成果を全国に普及
- ・体験活動推進地域・推進校の中で、新たに「命の教育」を取り入れた体験活動についての調査研究を実施



特別非常勤講師配置事業費補助（「心のせんせい」）

情報モラル等指導サポート事業（仮称）（新規）